

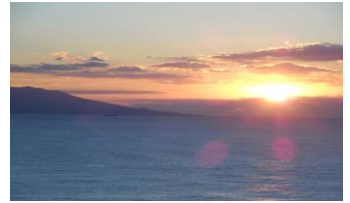
第 21 号
(1 月号)
2015 年 1 月 1 日

七里ヶ丘子ども若者支援研究所
それが社会参加だ！

住所：鎌倉市七里ヶ浜 2-31-12
携帯：090-7212-4055
Email: qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
編集長：新舛秀浩
発行責任者：滝田衛

あけましておめでとうございます (伊豆大島の日の出)

本年もよろしく願っています



ご報告 インタビュー形式トークセッション：研修会 教育とはなにか？を考える

不登校と学校、学力やいじめ、発達障害などリアルに問う

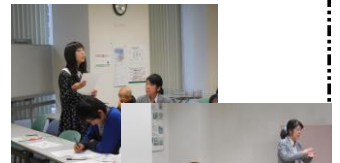
12 月 14 日の午後、島根三枝子さんと山本陽子さんにインタビュー形式で不登校・いじめ・発達障害をキーワードに教育を語っていただいた。1970 年代後半から、山本さんは国語の教師として学校の中で、島根さんは不登校の親と居場所を主宰し学校の外から子どもにかかわってきた。「学校は感情を育てない」と島根さん、山本さんは「集団が重んじられる」と率直な発言に、学校の課題が鮮明にされた。だから「人と違うことをやることにためらう子ども」がいると山本さんが言えば、島根さんは「見抜けない先生や大人がいる」と。約 70 年前に民主的な国の主人公として子どもの未来を信じて始めた民主教育は、大人と制度に付き従う子どもたちを育てる教育となったとトークセッションから理解した。ノーベル平和賞に輝くマラランの「教育は人を変える」が、日本の教育では極めてソフトな競争と忍従で子どもを追い詰める。評価と協調にあえぐ発達障害やいじめ被害の子どもたちを学校から排除し不登校の子どもたちが生み出される。会場から、中学不登校の新舛さんは「中 1 ギャップと先輩関係」を吐露、高比良さんは「学校に依存するわけにはいかない」障がいの子の母の歩みを、高島さんは「集団では学びきれない子」の学習支援を、富田さんは「不登校中卒も大丈夫」と言う娘さんが育児と仕事をする母となった成長を、三澤さんは「人間としての成長過程」のジグザグな子の歩みへの思いを、そして自らの障がいを振り返り「親子のコミュニケーション」を蘇武さん等 6 人が発言してくれました。最後に「教員が忙しすぎる、子どもの成長を見守る教師で」と山本さん、島根さんは「子どもは自由に生きていい。親としても子どもの育ちを文科省から取り戻した気持ち」と。(滝田衛)



コラム風

12 月 14 日の総選挙投票を若者と話した。「選挙は？」「行ってません」、「以前は？」「何度か選挙ありましたが行ってません」と。この若者の政治分析は確か興味深い、選挙に行かない。「なぜ？」と問うと「めんどくさい」。そうメンドクサイのだ。今回の投票率は戦後最低の約 52%。過去の市町村議員選挙では 50% を切ることも…。20～30 代はもっと低いと聞く。マスコミは「若者の無関心」を指摘し若者の政治姿勢を問うが、果たして若者世代の課題なのだろうか？ 多くの血を流し実現した戦後の民主主義だが、民主主義の根幹となる参政権をないがしろにする政治政策が根底にあると考える。憲法を参政権を骨抜きにし、経済の自由と競争に奔走する戦後 70 年を感じる。教育や人権より「お金」が優先する社会、無関心はそこにある。経済とは「自己責任」、投資も働き方もリスクは自分の責任という。そうではないだろう。経済の自由は人権と教育(生存権)のバランスが不可欠だろう。社会から身をひく子ども若者の「無関心、不登校やひきこもりを含め」は経済優先社会への警告ではないだろうか。本年も皆様のご多幸を！(滝田)

副応援団長 永野亜由美



会員 安川有里



団長 小幡沙央里

《研修会感想》

- ・自由な雰囲気は良かったと思います。テーマにしては時間が短かったかな。(横溝健正さん)
- ・あと数回このテーマでお話を伺いたいです。その後は具体的に現実を相手に私たちは何をするのかについてお話を伺えれば幸いです。(石岡広海さん)
- ・子どもの話や話す人がいないので今日この場に参加できてよかったです。(飯田高廣さん)
- ・大人の側が固定観念にしばられていたり、ゆとりがないことが子どもたちを苦しめているんだなと感じました。(匿名さん)

※師走のお忙しい時、30人お集まりいただきました。御礼を申し上げます。

12月14日こども若者応援団会議 『教育とは何かを考える』、のその先へ

こんにちは。代表の小幡沙央里です。12月の定例会は研修会「教育とは何かを考える」の後に開かれました。研修会に参加した方が、初めて定例会にも参加され、全部で13人の出席となりました。よって自然と内容は研修会の続き、のような形に。学校の評価基準に対する不満、「感性を育てない学校教育」との批判も挙げられました。研修会で「考える」だけでは、先へ進めません。子どもたちが望む形で勉強が続けられるように、学校復帰をしたい子にはその手助けを、別の形で学びたい子にはそれが可能なよう、これからの子どもたちのためにも、環境を整えてゆきたいと思います。本気の「共生社会」を実現してゆくように、こども若者応援団は活動をしてゆきます。

緊急告知！ 2月22日(日)大交流会大人も子ども・若者も「子育てから社会参加へ」ご参加下さい。 ※別紙参照

それぞれの風 ○発達障がいの子もたちとの出会いは20年以上、今も数名と伴走している。Aさん(当時小学3年生、現高校1年生)とBさん(当時小学1年生、現中学1年生)に、同日別々にお会いた。二人とも素敵に成長していた。僕は医師ではなく障がい名に拘らない。彼らの困り感と親御さんの不安感を聞き、現実的解決策の共有と行動が僕の役割、伴走だ。○親の不安感が大きい。発達障がいの学校課題は結果的な不登校。Aさんは何度も直面した。今一つは集団授業や人間関係でいじめられること。Bさんは日常的。共にコミュニケーション課題が底流にある。Aさんは“閉ざ(こもる)”し、Bさんは“開(訴える)”く。“からかい”が息苦しい。○学校生活の結果、親が不安感を持つ。Aさんは不登校で沈痛な面持ち、Bさんはいじめ被害に怒りと涙顔。子どもが一番苦しみ、親子の葛藤が始まる。互いに責め合って解決不能に。お互いの理解が一番だが、それがうまくいかない。しかし「空けない夜はない」のだ。○吉報が年末に届いた。20代の若者が就職面接に初めて合格。また30代の歯科学生は単位修得を順調に進めている。共に苦労の末の成果であり嬉しい限り。気が抜けない日々が続きますが、マイペースで“自分を大切に”の心持ち。先へ進んで欲しいです、お元気で。

編集後記 昨年は様々な体験に感謝です。僕の好きな「話す」「書く」ことができ本当に楽しい一年でした。まだまだ不安定でご迷惑をおかけしますが今年もよろしく願います。(新井秀浩)

【ご参加ください】
応援団会議は横須賀市市民活動サポートセンター 午後2時～4時。会員の自由な集まりです。

1月研究所開設日程(駐車場あり) 相談時間:10時～16時 土日訪問はご相談

1日(木)	元旦	18日(日)	応援会議 午後2時
5日(月)	休業	19日(月)	相談
8日(木)	他事業	22日(木)	他事業
12日(月)	休業	26日(月)	相談
15日(木)	相談	29日(木)	他事業